

第35号

# 根郷 寿だより

根郷公民館 根郷寿大学

2014-7月 発行

所信

会長 樹村 光雄

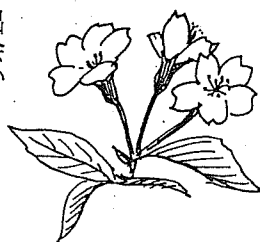
平成二十六年年度から「根郷寿大学」と改称し、五月十六日開講されるにあたり今年度「会長」に推挙されました。その責任の重さを肝に銘じております。副会長に福久氏、女性の国見さんとの「トロイカ方式」で、モチベーションを高め立体的具体的にすべく三役だけでなく皆様のご協力、ご指導、ご鞭撻を仰ぎ乍ら運営してまいる所存です。

我が大学は歴史的にも古く伝統ある又権威ある大学であります。然し乍ら、動もすれば各地域にその能力及び力を還元していないのではなにかと考察しております。

昨今高齢化が顕著になっており、高齢者に喜ばれるよう些少なりとも実践できることがあれば実践しようではありませんか。役所である公民館サイトも従前より時代の変化と共に「改革すべきは改革すべき」とのコンセプションが散見されるようになりました。六十年代、七十年代、八十

代の皆様は未だ未だ若い年令です。他人との話し合い、交流を大事に一年間無事に有意義にすごし「良かった」「楽しかった」、人との「和」「輪」を作ることが出来たと快哉出来るようにしようではありませんか。

最後に皆様の能動的な行動及び積極的な提言を期待します。ご協力とご賛同を得ながら一体となって運用出来れば、これ以上の幸せはございません。



東北の桜と出合い

十二班 大越 清

佐倉城址公園などの桜を満喫したのちに、北に向かう桜前線を追いかけるように、四月下旬、秋田・岩手を中心とした旅に、妻と自家用車で出かける計画を立てた。五日間ほど家を空けるため、さくら車を中心とした鉢物の世話を、お隣さんにお願いでして、その計画を披露した所、秋

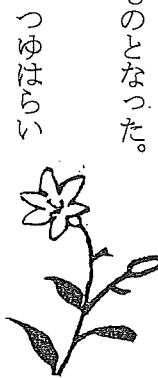
田県出身のお隣さんいわく『秋田、岩手まで行くなら、なぜ弘前城の桜を見ないのか』とすすめられた。さらに伺うと、十年の計画で石垣の修理をされる由、十年という年月は、私達二人寿命がそれまでに、間に合うのかなと思いつつも、すでに宿の手配を済ましており、弘前まで往復で四百キロメートルの距離、その時点で無理とあきらめた。

旅の前半は、角館の桜と武家屋敷などを見て、二泊目は乳頭温泉に宿をとった。その夕食の時、弘前市の出身で、千葉市在住の友人夫妻とはったり出会い、久しぶりの旧交をあたためた。やはり友人夫妻も隣人と同様に『なぜ弘前城の桜を見ないのか、明日案内する』とすすめられ、その言葉に甘えることとした。

翌日、早めに朝食をすませ、一路弘前へ向かい、昼前に到着した。夫妻のガイドで弘前城の桜を楽しんだ。特に散り始めた花びらで一面に埋めつくされた堀の水面は、さながら桜色のじゅうたんを敷きつめたよう

であり、また天守閣より望んだ城内は、桜の中に城があるようであった。六十有余年見てきた桜の中でも、他に比べようのない素晴らしさで、長い車の運転の疲れを癒すのに充分であった。

友人との偶然の出会いと、城の桜が相まって心に残る旅が、一層増したものとなった。



つゆはらい

二班 福久 伍市

第二の故郷、北海道で過ごしていた小学校五年生の頃、毎朝五時に起きて裏山にある馬小屋へエサをやりに行くのが仕事だった。

途中の山道は人が一人しか歩けない程の細い道、草が両方からたれさがり、歩くと朝つゆがズボンについてしまい、馬にエサをやり、水を与えて帰ってくるといつもズボンのすそがつゆにぬれて、そのまま学校に行きました。

でも、いつのまにか乾いてしまい、又次の朝も同じことをくり返すので、

棒を持って草をたたきながら山道を歩きました。

大相撲では横綱の土俵入りの時、つゆはらいが先を歩くのを見るたび、昔、馬小屋に行く時に棒でつゆをはらいながら山道を登った時のことを思い出しています。

戦争はもうたくさん

元在校生 廣吉 正毅

人間は傲慢で他人の話に耳を貸さなくなったら進歩がないと、私は子供のころから聞かされてきた。これが傲慢な権力者の場合だと大問題になる。

先の大戦は広島と長崎に原爆を落とされ大惨事のうちに終わった。戦争で家を焼かれ人が亡くなり多くの犠牲を出してしまった。戦いが終わって人々は戦争の空しさを知り不戦を誓う。以後、国民は皆で努力し戦後復興を成し遂げた。これが今の新生日本国である。

あの戦争は何の前触れなく突然おきたものではない。そこには日本

を取り巻く外交問題があったようだ。先ずその情勢を正しく分析し対応さえすれば戦争は防げたと思う。

一方、国内では体制固めの法律を作って言論を統制したとされる。このようにして国は次第に軍国体制を固めて行く。国民は萎縮し、為すべなく世の中は暗くなり徐々に戦争へと引き込まれて行った。そして開戦から約四年後の昭和二十年八月に戦いは終わった。

私は終戦から一年位して敗戦国民として混乱の満州から引きあげて来た。戦後も六十八年がたち私の記憶は薄らいできている。昔の記憶をところどころたどってみた。すると現代が、かつての開戦前夜に重なり一抹の不安を禁じえない。と言うのは……

いま日本は周辺国との間で領土問題が現実性を帯びてきた。私にはその問題の「根っこ」の部分がよく分からない。現状では双方が譲らず平行線をたどっている。

だがここは解決の道をお互い対

話でさぐりあてるしかない。いずれにしても相手とは昔からの古い付き合いがある。日本は国際社会の声に耳を傾け外交で孤立してはならない。お互いが話し合いで収まることを願っている。

ここで国は国民に都合の悪いことをひた隠しにしない。それは真の主権者は国民であつて国の行く末を知る義務がある。かつての過ちを繰り返さないよう情報を適時適切に公開して欲しい。これからさき起こりうるものがその時代に生きている人には案外わからないこともある。「知る権利」と「言論・表現の自由」は表裏一体である。この両者はまさに民主主義の根幹といえる。

また、国が公開する情報は正確でなければ意味がない。人命より重い情報なんてこの世にありはしない。国民はここで知った情報を自分の頭で考え判断し行動することになる。

時の権力者は真実「民の声」に耳を傾け国民を泣かせる戦争を永久にしてはいけない。

触れ合いの和(輪)を求めて

四班 齋藤 たかし

東日本大震災から三年数カ月が過ぎた。私の故郷秋田県は日本海側ですが、主な被災地と同じ東北地方であり、助け合い運動を展開しています。

古い話ですが安政の大地震で、鳥海山の麓が隆起して象潟(きさかた・現にかほ市)に、点々と広がっていた小さな島々から海域が離れました。今この地区は「小松島」と呼ばれ、太平洋側の松島町と姉妹都市になっています。

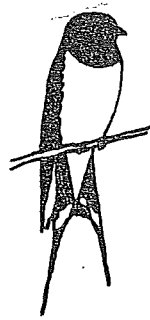
又、今回の震災で被災地の一つとなった茨城県大洗町と、秋田県にかほ市とは災害助け合い協定を結んで交流が続いています。このように人々は助け合い・励まし合い、苦楽を共に生活することが求められています。

近頃、何か「事」が起こればひびんだり唾(いが)みあつたりする人が多い世の中、どんな団体でも人それぞれの考えを尊重して行動するよ

う取りまとめなければならぬ。

根郷寿大学は、高齢者が安心して充実した日々を過ごせる中心の場であることを目標としています。開講以来四十三年を経過したと言う、歴史ある生涯学習講座です。

数年続いた副会長を平成二十五年を以て退任しました。社会通信教育協会の称号『学びの達人・遊びの達人』の名に恥じないよう、体力と時間のある限り皆さんと共に楽しむことが出来れば幸いです。



歴博ひとくちガイド(その三)

七班 座間 功

第一展示室に入つてすぐ右側の部屋に入ると土偶のコーナーがあります。このコーナーに並んでいる土偶は今から九千五百〜二千八百年前の縄文文化に伴う各地の同偶像です。土偶は粘土をこねて人体をかたどって作られた素焼きの土人形です。それは人を表現したのか、神や精霊

のようなものを表したのか、ハッキリしていないそうです。そして土偶は妊娠した女性や赤ちゃんを抱いたものが多くあり、子供のすこやかな成長を願ったのではないかとわれています。また、土偶はわざと壊されてから捨てられている例が多く、身代りとして作り病気や怪我をした個所と同じ土偶の部分を壊して、患部にとりついた悪霊などを追い払い、健康を回復しようとしたといわれていますが、一方では自然の恵みに頼って狩猟と採集によって生活していた縄文人にとつての神は自然の精霊であり、土偶は精霊の宿るものと考えられていたともいわれています。

特徴ある土偶としては

一、子抱き土偶(東京都宮田遺跡出土)——お母さんが両腕に赤ちゃんをしっかり抱きかかえ授乳しているよう。

二、遮光器(しゃこうき)土偶(青森県亀ヶ岡遺跡)——目の部分が、イヌイットが使う遮光器(雪メガネ)に似ている。

三、ミミズク土偶（茨城県広畑貝塚遺跡）——顔がミミズクに似ている。  
 四、中空（ちゅうくう）土偶（函館市著保内野遺跡）——細かな文様でウルシが塗られ内部が空洞になっている。

五、ハート形土偶（群馬県郷原遺跡）——顔がハートの形をしている。

六、ネコの顔をした土偶（山形県黒駒遺跡）——顔がヤマネコと思われる。

七、出っ尻土偶（長野県刈谷原遺跡）——お尻が出っ張っている。

八、縄文のヴィーナス（長野県榑原・山形県西ノ前遺跡）——丸みがあり豊かな女性及びすらりとした八頭身で美しさを表わしている。

その他いろいろな土偶があります。そのように自然に畏敬（いけい）の念を抱きながら海や森や川の食べ物を探求して生活していた縄文時代は約一万三千年（約一万六千〜約三千年前）続きますが、やがて朝鮮半島から水田稲作が伝えられ、弥生時代へと移って行きます。また、この縄文時代すでにお酒造りも行われていた

そうです。造り方は庭常（にわとこ）の赤い実を女性がかみくだいて自然発酵させて造っていたといわれています。

そして縄文人の人口は五千年前（中期）には約十万人前後の人々が生活を営んでいたといわれますので、今ではとても思い及ぶことのできなような悠久の歴史ロマンを感じますね。

【ご案内】転倒予防教室

「いきいき33運動」を学ぼう

四班 内野 牧夫

【目標】からだが動けば、心も頭も働く、いきいき体操で健康ライフ、33運動とは、三ヶ月の運動を続けて、三人単位で取り組む運動プログラムです、毎日三十分、三メニューが目標です。

【目的】リズム体操による全身運動と姿勢づくりで市民の健康づくり。

【対象】小学校四年生以上、無料体験による説明会を左記で行います。運動靴と運動できる服装でご参加下さい。

さい。

【体験・説明会内容】 雨天中止

①開始時間 午後九時三十分

※所要時間はおよそ六十分です

会場 問い合わせ先

☎090-8315-4030

②第一土曜日、第三土曜日

……根郷小学校正門前中庭

（いずれも駐車可）

第二土曜日、第四土曜日

……佐倉中学校・緑の広場

（正門を入り左側）

③内容

★呼吸法と歩行運動★ラジオ体操

みんなの体操★中国医療保健体操

★うちの体操&ステップ運動★佐倉

ふるさと体操★なのはな体操ほか

問い合わせ ☎485-8000

いきいき体操を楽しむ会 内野牧夫



あとがき

寿だよりも「根郷寿だより」と改め、市民全域が読者ではありませんが、

根郷地区の特色を発信していくことが出来ることを願っています。

平成二十六年根郷公民館の皆さんを紹介します（敬称略）

根郷公民館

・館長 木村 武雄

・学芸員 黒川 公二

・主査補 菅原 久志

・主任主事 尾形 弥生

戸田 さよ子

寿大学運営委員

・会長 樹村 光雄

・副会長 福久 伍一

・副会長 國見 光子

・各班の班長、副班長は五月開講日に選任されました。

根郷寿だより編集委員

齋藤 雄、栗尾 義治

佐藤 静江、吉野 強三郎

原田 涉、松井 強

あと一名女性の方大歓迎です。

又、投稿は寿大学受講生とは限りません、根郷公民館での講座利用者、元寿大学受講者を含め幅広くご

投稿下さい。